

Well-being  
Japan  
2024

富山県における主観的ウェルビーイング指標を  
活用した政策構築の取組みについて

石川 善樹  
(ウェルビーイング学会 理事)

Society of  
Well-being



## 富山県における主観的ウェルビーイング指標を活用した政策構築の取組みについて

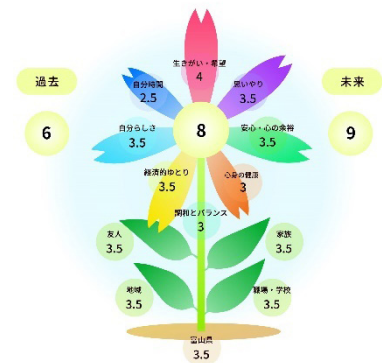
石川 善樹（ウェルビーイング学会 理事）

### 【富山県ウェルビーイング指標の策定】

富山県では、令和4年2月に「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」をビジョンとする「富山県成長戦略」（以下、「戦略」という）を策定し、その戦略の中心にウェルビーイングを据えている。

様々な社会課題が山積する中であっても、未来志向で新しい富山県の更なる発展を図っていききたい。そのような思いから、ウェルビーイングを軸とする地域を形づくることで、富山県民のみならず、富山県とかがわる関係人口（幸せ人口）も増やしていくことを狙いとしている。またそれによって生まれる人材の集積や交流を県内社会経済の成長につなげ、結果として地域のウェルビーイングをさらに高めていくという好循環を生み出していくことも目指している。

上記の考え方にに基づき、県民（および関係人口）のウェルビーイング向上に資する各種施策を構築し、その展開を図っていくため、令和4年度に「ウェルビーイング推進課」が知事政策局に設置された。同課は庁内横断的にウェルビーイング政策を推進する体制構築を目的に設置された、全国的にも珍しいウェルビーイングを所掌する専門部署である。ウェルビーイング推進にあたり同課では、1) 県民認知を促すとともに、県民にウェルビーイングを自分ごとと受け止めてもらうため、ともすれば漠然とした印象を持たれがちなウェルビーイングの意味や内容を指標の形で紐解き、可視化することで、県民の共通理解につなげること、2) 今後の富山県における政策展開の「羅針盤」とすること、などを目的に、県民の主観的なウェルビーイングを捉えるための体系的な指標策定に取り組み、令和5年年初に「富山県ウェルビーイング指標」（以下、「指標」という）を公表した。



策定された指標は「総合指標」、「分野別指標」、「つながり指標」の3つから構成されており、これらは更に10のさまざまな要素に分かれている。具体的な要素としては「心身の健康」、「経済的なゆとり」、「安心・心の余裕」、「自分らしさ」、「自分時間の充実」、「生きがい・希望」、「思いやり」などが設定されている。

なお指標の策定にあたり、富山県ウェルビーイング推進課が留意した点として、1) 県職員が「自分ごと」として考え取り組むことが重要な一歩となるため、あくまで県職員が主体となり独自に指標作成を行う、2) 漠然とした概念であるウェルビーイングを県民が直感的に捉えられるよう、指標を「花の形」で可視化することで県民の共通理解を促進する、などが挙げられる。

### 【政策形成に向けた活用】

指標は富山県独自の指標で、一人ひとりの主観的な実感に基づいた幸せな状態を捉え、それが持続することを追求する、という考え方が基盤となっている。ウェルビーイング推進課では、この指標を従来から活用してきた様々な客

観的指標と併用することにより、県民目線をより重視した形で、施策の検証や事業執行に活かすことを目指し、成長戦略の推進、ひいてはより良い地域作りに役立てたいとしている。

こうした考え方のもと、富山県では、令和6年度の当初予算において、全ての部門でウェルビーイング向上効果等を勘案して施策を検討する方針を打ち出した。加えて、さらに一歩踏み込んだ取組みとして、財政当局の主旨のもと、部局の縦割りととらわれないテーマを設定し、テーマ毎に「施策設計図」を用いて事業のパッケージ化を図る「ウェルビーイング指標を活用した課題解決に係る経費」については要求上限額を設けないこととし、積極的な企画・立案、予算要求を促すこととした。その結果、県を取り巻く様々な課題とウェルビーイング指標の状況を踏まえ、知事部局全てに、企業局、教育委員会、警察本部を加えた14部局から、計23テーマの提案がなされた。

《参考》ウェルビーイング指標を活用した課題解決に係る経費（施策設計図）

<https://www.pref.toyama.jp/documents/25712/04wellbeing.pdf>

令和5年10月25日  
富山県経営管理部

**令和6年度当初予算編成方針**

「幸せ人口1000万〜ウェルビーイング先進地域、富山」を実現し、県民が主役の新しい富山県を創っていくため、「富山県成長戦略」等に基づく各種の取組みを着実に推進するとともに、未来に向けた「人づくり」と「新しい社会経済システム」の構築に積極的に取り組んでいく必要がある。一方、エネルギー価格・物価高騰の影響に加え、少子高齢化に伴う社会保障関係費の増加や、公債費など義務的経費の高止まりにより、本県の行財政を取り巻く環境は厳しく、予算を許さない状況にある。

このため、令和6年度当初予算編成に当たっては、限られた人的・財政的資源を効果的に活用するため、「県民目線」「スピード重視」「現場主義」をさらに徹底し、一層の選択と集中により、既存事業を抜本的に見直すとともに、すべての部門において、ウェルビーイング向上効果等を勘案して施策を検討することとし、前例にとらわれず新たな取組みを積極的に進める。

**1 未来に向けた「人づくり」と「新しい社会経済システム」の構築にかかる経費【要求上限なし】**

「富山県成長戦略」に掲げる6つの戦略の柱ごとのKPIや「八つの重点施策88の具体策」の総仕上げに向けた取組みをはじめ、「子育て環境日本一の実現」、「G7教育大臣会合の成果の継承・深化」などの人への投資や、「DXやカーボンニュートラル」、「官民連携の推進」、「関係人口の創出・拡大」などによる新斬で効果的な事業に優先的に配分

**2 ウェルビーイング指標を活用した課題解決に係る経費【要求上限なし】**

各部局において部局にとらわれないテーマを設定し、別途示す「施策設計図」（県民のウェルビーイング向上を意図した事業の整理）に基づき、ウェルビーイング指標を活用し、パッケージとして新たに企画・立案した事業に優先的に配分

※テーマの設定や「施策設計図」の作成にあたっては、事前に知事政策局と協議すること

※事業の成果を検証し、必要な見直しを行う場合は、令和6年度以降当面3年間の継続を認める

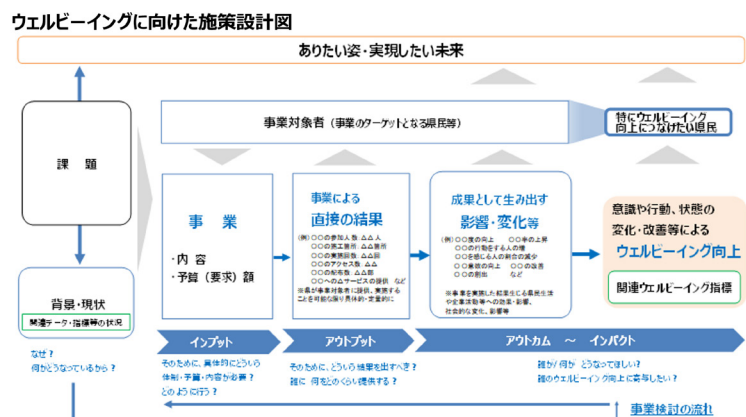
**【施策設計図の作成】**

「施策設計図」は、いわゆる「ロジックモデル」を応用したもので、新規の施策を立案する際の考え方やプロセスを可視化することを目的に作成された富山県オリジナルのツールである。ウェルビーイング推進課は「県民のウェルビーイング向上をゴールとして常に意識できるようにしたり、施策のもたらす成果がどのように課題の解決、あるいはウェルビーイング向上につながっていくのか、その流れを分かりやすく体系的に示したりするといった役割や効果があると考えています。」と述べている。

なお、具体個別の施策設計図の策定は概ね以下のようなステップを踏んで進められた。

①「ありたい姿・実現したい未来」を設定する

ウェルビーイング指標データの傾向や関連状況等を基に職員による議論を通じ、ターゲットとなる県民や社会の「ありたい姿・実現したい未来」を設定。



## ②「背景・現状」を整理し、「課題」を明示する

背景・現状について、エビデンスとなり得る県ウェルビーイング指標や関連する客観データの状況などを整理。整理された「背景・現状」と、「ありたい姿・実現したい未来」を対比することで、そのギャップから解決を図るべき「課題」を明示。

## ③「事業対象者（事業のターゲットとなる県民等）」を設定する

指標の策定にあたって実施した県民意識調査データからは、年齢、性別はもとより、居住地や家族構成等、様々な状況が異なる県民の、それぞれの属性によって異なるウェルビーイングの姿が把握できる。そうしたデータ傾向も踏まえ、こういった属性の県民にどのような施策を投入し、その対象県民のどのようなウェルビーイング指標項目の向上につなげるべきか、ということを考えつつ、施策対象となる具体的な県民層を明示。一般的に行政施策の検討や執行にあたっては、行政職員はその対象を「県民」や「住民」といった幅広で漠然としたイメージで捉えがちであるが、ウェルビーイング推進課では、今般の施策設計図の作成にあたり、様々な県民属性に応じて異なる、指標の水準や傾向等にも目配りをしながら、できるだけ具体的な県民像を想像してターゲットを設定することを促すよう心がけたとのこと。

## ④「(成果として生み出す) 影響・変化等」を設定する

ターゲットとなる県民の意識、行動、状態の変化・改善を具体的に設定。

ウェルビーイング推進課によれば、③のターゲットの設定のステップと同様、指標のデータ傾向等も睨みつつ、具体的なターゲットとなる県民の、どのウェルビーイング要素を向上させるのか、また、その向上のためにはどのような意識や行動の変容が有効であるのか、といったことをイメージしながら検討するよう促したとのこと。

## ⑤「(事業による) 直接の結果」を設定する

施策による具体的な成果・効果、つまり「アウトプット」を設定。

前段階で考えた、意識や行動の変容を生み出すために必要と考えられる、事業による直接的、具体的な結果（成果）を検討。ウェルビーイング推進課によれば、結果の設定・記述にあたり、できるだけ定量的な表現を促すことを心がけたとのこと。

## ⑥「事業」を設計する

ここまでのステップを踏まえ、具体的な事業を設計。

⑤の結果を生み出すために必要な投入資源（予算・人材）を見積もりつつ、事業実施がもたらす結果がターゲットに対して投入資源に見合う成果を生み出すかという点も併せてチェック。ウェルビーイング推進課によれば、この段階は、県政を取り巻く現状（予算編成作業中の令和6年年初に能登半島地震が発生し、富山県も被災した）や、様々な与件（財源や職員定数）を踏まえたうえで行政資源の配分（財政・人事）を検討する必要があるため、内部調整に最もエネルギーを要するフェイズであったとのこと。

富山県ではこのように、施策設計図を用いて「バックキャスト」的な思考で以上のプロセスを進め、具体の施策群を検討したとのことであった。その結果、具体例として「若者・子どもを取り巻くつながり実感の充実」や「県民の命を守り、ウェルビーイングを支える強靱な公共インフラの整備」など、23テーマの施策設計図が完成した。

**事業検討の流れ**

1 ありたい姿／実現したい未来  
どうありたい？

2 背景・現状 3 課題  
なぜ？

4 対象 5 特に  
誰に？

**施策設計図の具体例**

「若者・子どもを取り巻く“つながり実感”の充実」

**仮説・気づき**

・ウェルビーイング指標のデータ  
・各種統計データ等の状況、傾向



ウェルビーイング指標項目

6 ウェルビーイング向上  
どのようなウェルビーイング？

9 実施事業 (インプット)

そのために、どのくらい資源 (予算等) を使って、何を？

8 直接の結果 (アウトプット)

そのために、どんな活動結果を生み出す？

7 影響・変化 (アウトカム～インパクト)

そのために、どう影響・変化が必要？

**【今後の展開に向けて】**

以上見てきたように、富山県では、令和4年度以降1) ウェルビーイングを県の中心的な戦略として掲げる、2) 庁内横断的にウェルビーイング政策を推進する体制を構築する、3) 独自のウェルビーイング指標を体系化・見える化する、4) ウェルビーイングに資する予算編成や施策設計図の作成、行政分野横断的な政策形成を図る、という取組みを行ってきた。

このような取組みは極めて先進的である一方、様々な課題も孕んでいる。ウェルビーイング推進課では、職員理解の深化や、さらなる部局連携の促進、主観的ウェルビーイング指標とその他客観データを有機的に絡めたデータ活用方策の検討など、多くの改善や工夫の余地があり、さらなるブラッシュアップを図っていく必要があるとしている。

一方で、今回の予算編成における取組みは、「県民の主観」を重視する政策形成を進めていくうえでの画期的な第一歩であり、今回のチャレンジを通じた手応えとして、組織内に好ましい変化が生まれてきたとウェルビーイング推進課は述べている。

そうした変化のひとつとして、県庁内において県民の主観的ウェルビーイングを意識した政策議論が活性化したことを挙げている。施策設計図の作成過程では、ウェルビーイング推進課も伴走的に関わりながら、職員同士が膝詰めで議論を進めたとのこと。加えて、令和5年12月には、新田知事とそれぞれの施策提案・予算要求を行った部局長が、施策設計図について集中的な意見交換を行うなど、県民の主観的ウェルビーイング向上を見据えた施策の展開について庁内議論を深めることができ、職員の意識改革にも繋がったとしている。

また、富山県では令和6年2月に、新たに策定した「富山県職員人材育成・確保基本方針」と「富山県職員行動指針」を令和6年度予算案と合わせて発表しているが、このいずれにもウェルビーイングの考え方が盛り込まれている。

「富山県職員人材育成・確保基本方針」は職員一人ひとりが主体的に動き、「やりがい」や「自己成長」を追求する

と同時に県政の推進に必要な人材を確保する方向性を示すもので、「始動する（動き始める）富山県庁」を目指す内容となっている。

また、「富山県職員行動指針」は一人ひとりの職員がどのように行動すべきかを示すもので、これを遵守することにより、職員は自らの「やりがい」やウェルビーイングを高めるとともに、県民のウェルビーイング向上に向けた県政の推進にさらに寄与することができるとしている。

### 富山県職員人材育成・確保基本方針の概要 ～ 職員一人ひとりが自ら考えて“始動”する富山県へ ～

**策定の背景**

- **社会情勢の変化 複雑・高度化する行政課題への対応**
  - 少子高齢化の進展・出生率・高齢化の進展、個人のライフプランや価値観の多様化、大規模災害・感染症などの新たなリスクの顕在化、デジタル社会の進展など、社会情勢は急速に変化しており、職員が直面する行政課題も複雑化・高度化しています。
- **働き手の意識変化への対応**
  - 官民を問わず、職場に求める価値観は、「仕事のやりがい」や「組織への貢献の実感」、「自己成長」等が重視される方向に変化しています。
  - 「富山県成長戦略で掲げる『幸せ人口100万人』ウェルビーイング先進地域、富山～」を推進するためにも、職員の仕事のやりがいや自己成長などの実感を伸ばしていく必要が求められます。

↓

職員の人材育成・確保を計画的・総合的に進めるため、「富山県職員人材育成・確保基本方針」を策定  
※本方針は5年毎に見直し、今後の社会情勢の変化にも対応

### 2.富山県職員行動指針

➤ 県民のウェルビーイング向上を目指し、職員一人ひとりが同じ方向を目指し、力を結集できるよう、職員が中心となって職員行動指針を作成しました。

**【ウェルビーイング】**  
いち富山県民として、県民の幸せに向き合います

私たちが日々の仕事を通じて、富山に誇りを持てる県民の幸せに繋がっています。私たちが、富山の幸せのために、私たちが頑張ります。

自分として、業務や時間に対して、自分自身の考え、思い、意欲を積極的に発揮していきます。幸せな富山県民は、幸せを感じられる人が増えることを目指します。

**【チャレンジ】**  
チャレンジを積み重ね、「より良くする」を応援します

時代は急速に変化し続けています。その変化は、富山県民の暮らしや働き方を大きく変えます。変化に対応して富山の暮らしや働き方を良くしていくためには、富山県民一人ひとりが、自分自身の能力を最大限に発揮し、チャレンジすることが大切です。富山県民一人ひとりが、自分自身の能力を最大限に発揮し、チャレンジすることが大切です。富山県民一人ひとりが、自分自身の能力を最大限に発揮し、チャレンジすることが大切です。

**【専攻専攻】**  
人とつながり、現場を知り、施策を磨きます

私たちが働く仕事は、富山に生きる人々の暮らしを支えます。つまり、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。

**【誇り】**  
託された仕事に誇りを持ち、最善を尽くします

毎日仕事に誇りを持ち、最善を尽くします。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。

**【共通共創】**  
立場を超え、お互いを尊重し、力を掛け合えます

富山県民一人ひとりが、富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。

**【富山県民】**  
富山県民一人ひとりが、富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。富山県民の暮らしを支える仕事は、富山県民の暮らしを支える仕事です。

## 【おわりに】

本稿では富山県における、主観的ウェルビーイング指標を活用した政策構築の取組みについて概観してきた。具体的には、日本初ともいえる主観指標を重視した「ウェルビーイング予算」の編成や、その背景となるロジックモデルの構築など、今後、国や自治体におけるウェルビーイング政策展開において参考となりうる可能性を示唆している。

一方で、富山県における主観的ウェルビーイング指標を活用した政策形成の取組みは、未だ緒についたばかりと言わざるを得ないが、富山県ウェルビーイング推進課は、「県民のみなさんが県の施策を通じてウェルビーイングを感じられるよう、富山県に生きるしあわせを実感できるよう、今後も研鑽を重ねていきたい」としている。住民に主観的ウェルビーイングの改善を実感してもらうべく、より洗練された政策を生み出していくためには、「住民の福祉の増進」という、地方自治法に定める地方公務員の責務に正面から向き合い、独善に陥ることなく、政策のあるべき姿を住民起点で考え続けるという、地方行政に携わる職員一人ひとりの弛みなき知的努力が必須の要素であろう。

また、富山県の地元紙、北日本新聞の昨年11月16日朝刊記事によると、同社が県内有権者を対象に行った電話調査では、新田富山県知事が「ウェルビーイング」を政策の柱に据えていることについて、「大いに支持する」が12.6%、「どちらかといえば支持する」が42.8%と、半数を超える55.4%の県民が肯定的な回答を寄せたとのこと。時代の潮流となりつつある「ウェルビーイング」という概念を体系化した主観的指標を、地方行政の現場に実装しようとしている富山県の画期的な取組みが、県民の共感を得ながら、新しい時代にふさわしい創造的な行政モデルに進化していくことを期待する。